

# 「つぎとつぎの時」に困らないように

## 〜非常時への備え・心構え〜

今年の3月11日で「東日本大震災」から10年になります。2月13日(土)夜の福島県沖で発生した東日本大震災の余震を受けて、2月26日(金)に防災に焦点を当てた町在住の外国人実習生を対象とする「にほんごカフェin中泊」を開催しました。濱館町長もかけつけて「1人でも多くの仲間と繋がり、何かあった時にはしっかり逃げられるように、しっかり学んでほしい」と激励しました。この日は、ベトナム人男性8人が参加し、緊急時によく聞く単語や避難時の心得を確認。県作成の「防災ハンドブック」の活用が呼びかけられました。



また、中里消防署員の指導のもと、119番のかけ方やAEDを使った心肺蘇生法を体験しました。ホアン・コン・ダットさんは母国ベトナムでは地震がないことにふれながら「初めて心肺蘇生法を体験した。地震が起こったときにとる行動を学ぶことができました」と話しました。

講師である青森大学の石塚ゆかり准教授は「災害時に用いられる固有名詞などは難しいものが多い。わかりやすく説明してくれる人が身近にいると安心感があるので、地域住民の協力が必要」と述べました。

「にほんごカフェin中泊」は、町と(公財)青森県国際交流協会、青森大学で共催し、4回目となる今回は、3月26日(金)に開催予定です。

### ◆過去に水害が町内でも

昭和58年に発生した日本海中部地震は、激しい揺れのほかに津波も観測され、小泊地域では船の転覆や道路の浸水など、大きな爪痕を残しました。平成26年には、大雨によって中里地域の宮野沢川が氾濫し、道路が冠水するなど大きな影響がありました。

### ◆町内に7自主防災組織

町内には、下前地区、新町2地区、若宮、芦野、田茂木、長泥の7自主防災会があり、避難訓練や炊き出し訓練などを自発的に実施しています。

「自助」「共助」「公助」の中で、地域で助け合う「共助」の担い手組織として期待が寄せられています。

新町2地区自主防災会の熊木繁春会長は「近年の自然災害は、甚大な被害をもたらすことが多い。その脅威に立ち向かうには、地域で防災・減災に取り組む、地域で災害を乗り越えられるよう、初動対応が重要になる」と話します。

いま一度、ハザードマップや避難路の確認、非常時の持ち出し品を確認しましょう。また、各家庭に配布された「あおりおまもり手帳」も確認しましょう。



平成26年 宮野沢川の氾濫



昭和58年 日本海中部地震の小泊港